

日特製作所 起工式

5月30日、スパークプラグトップメーカーである日本特殊陶業株式会社の子会社である株式会社日特製作所の工場新設に伴う起工式が、倉内工業団地で行われました。今回、新設される工場は、敷地面積約8千㎡、建物床面積が約2千2百㎡で、平成20年4月に操業を予定されています。今回の工場新設により、日本特殊陶業株式会社鹿児島宮之城工場からスパークプラグ用中心電極の製造が同工場へ移管され、生産立ち上げ後は、中心電極全てが日特製作所からの供給となります。今回、本町への進出により、地域における雇用の創出、活性化はもとより、地域経済の浮揚発展に大きく貢献することが期待されます。

初之儀を行う株式会社日特製作所の木村保雄代表取締役社長



薩摩中央高等学校

虎居商店街に花プランターを贈呈



虎居商店街にプランターを飾り付ける 薩摩中央高等学校の生徒

6月8日、昨年の豪雨災害で大きな被害を受けた虎居地区商店街に薩摩中央高等学校の生物生産科の3年生35人が花のプランターを寄贈しました。当日は、地元の人と一緒に、なってアーケードや虎居地区公民館に配置しました。この花プランターは、身近に花があることにより被災された皆様の心にゆとりと安らぎを与えることができ、と生徒が「生物活用」の授業を通じて育てたものです。

薩摩タイムで農業を学ぶ

5月31日、薩摩中学校の一年生が総合的な学習の時間で「さつまを知る」をテーマに農業について学びました。講師として役場農政課の赤崎課長が招かれ、世界や日本の食糧事情や食生活の変化などを踏まえ、地域の農業の実態や農業と環境との関わりなどについて話しをされました。生徒からは、鳥インフルエンザの問題や地球温暖化が及ぼす農業への影響などの質問があり、農業に関する関心の高さが伺えました。薩摩中学校は、文部科学省のキャリア・スタート・ウィーク推進実践校に指定されており、今回の授業は、その一つです。なお、3年生では連続5日間の職場体験が予定されています。



農業について学ぶ薩摩中学校の一年生



六川にもくずガニを放流する永野小5・6年生

永野小5・6年生

もくずガニを放流

5月21日、永野の六川で永野小学校5・6年生16人が山太郎ガニ（もくずガニ）約5,000匹の放流を行いました。川内川漁業協同組合の田渕政春組合長は「夏になれば大きくなっていますので、川にカニを探しに来て下さい」とあいさつされました。児童は、最初は怖がっていましたが、次第に手で捕まえて川に放流していました。また、同漁協は4月26日にも永野薬師公民会の南川でアユ5,000匹を放流しました。